

安全に資する科学技術推進に関する有識者会合
議事要旨

1. 日時：平成18年5月18日（木）16:00～17:10
2. 場所：合同庁舎4号館 4階 共用第4特別会議室
3. 出席者：
構成員（薬師寺泰蔵（座長）、阿部博之、柘植綾夫）
招聘専門家（大野浩之、小野正博、北岡元、倉田毅、志方俊之、中込良廣、
村山裕三）

（以上、敬称略、五十音順）

事務局（中村参事官）

4. 議事概要

(1) 安全に資する科学技術推進戦略（案）について

- ・ 資料18-2「安全に資する科学技術推進戦略（案）」、資料18-3「安全に資する科学技術推進戦略（案）概要」について事務局より説明。今後、6月の基本政策推進専門調査会及び総合科学技術会議で報告する予定。
- ・ 意見交換
 - 最近各国でRテロが話題の中心となっている。日本は対策が十分とはいえないので、戦略案の中で生物剤・化学剤とともに放射性物質を列挙した方がよい。
 - p.13「セキュリティ・イノベーションマップ」というのはどういうものか。また、26行目「イノベーション志向」という文言は、「実用志向の技術開発システム」とした方がよい。
中村参事官 「セキュリティ・イノベーションマップ」は、目標を設定してそれまでの工程をわかりやすく示していくものである。
 - 「セキュリティ・イノベーション」は、セキュリティのイノベーションではなく科学技術のイノベーションであるとわかるように工夫が必要である。英訳した際に誤解される可能性がある。
 - 柘植議員 「セキュリティ・イノベーションマップ」は、ロードマップ、技術マッピングと後で混乱しないようにしなければならない。

薬師寺座長 安全に資する科学技術は、やはりイノベーションが必要な部分が多い。制度的なものも必要であり、その中でもイノベーションが重要である。そういうなかで、どういう技術があつて、それをどうというプロセスで安全に資する科学技術としてのイノベーションにつなげていくかを示す。このような全体像を、安全に資する科学技術を推進させるイノベーションとして「セキュリティ・イノベーション」とするということかどうか。

阿部議員 p.16 技術流出防止について、公的研究機関はきちんとやらなければいけないが、民間企業は温度差が非常に大きい。また、分野によっては製造段階で問題になっており、研究機関だけに限らない。

○ p.10 食品安全問題に関して、放射線による食品照射は、科学的な根拠をきちんと示して安心してもらうべきである。外国ではどんどんやられておりそれらが国内に入ってきているので、我が国として検討が必要である。

○ セキュリティの分野では、どの省のどの資金にいつまでに応募したらいいか、どういうプロジェクトを持っていったらいいかなどわかりにくい場合が多いので、手引きのようなものをつくれば実業界や大学の関係者は動きやすい。

薬師寺座長 おそらくこれから各省のプログラムが提案されて、競争的資金として応募できるものや振興調整費の政策的な課題などがあがってくる。これから作りあげていくことなので努力したい。

○ 今後の具体的な推進方策はどうか。

薬師寺座長 国際的な展開は動きつつある。また、日本学術会議のプログラムとしてつくるものや、緊急研究によるものなどが実際に動いている。まずは、このプロジェクトチームの報告はそれらをサポートするという点で貢献する。

○ 各省庁によって哲学が異なるので混乱が生じる。科学技術に関する横断的な基準のようなものを内閣でつくるべきである。

薬師寺座長 今回は、Rテロ、イノベーション、技術流出防止などについてコメントをいただいた。本案について専門家の方々から意見を頂き、関係省庁と調整した上で、来月の総合科学技術会議で報告する予定である。

了